

## 令和7年度 第7回タウンミーティング

### 能美市女性協議会とのタウンミーティング

日 時 令和7年11月6日（木）19:00～20:25

会 場 寺井地区公民館 大ホール

参加人数 70人

#### 1) 開会

#### 2) 能美市女性協議会 橋本副会長挨拶

#### 3) 市長 市政報告

##### ○主なできごと

- ・2005年に能美市が誕生し、2015年に10周年式典を行った。また、2015年は、北陸新幹線金沢開業の年でもあった。
- ・2019年に令和がスタートし、2020年にはSDGs未来都市に選定された。
- ・2023年には、加賀立国能美誕生1200年として、いろいろな催しを行ってきた。

##### ○自然災害など

- ・2018年の豪雪や2020年の新型コロナウイルス感染症拡大、2022年8月の豪雨災害、2024年元日の能登半島地震、今年の相次ぐ熊出没など、自然災害も大変多い20年であった。

##### ○市内の状況

- ・TOPPAN(株)が社名を変えて、日本国内で初めて進出を決めたのが、岩内工業団地であった。

- ・和田山古墳群周辺には、防災センターや警察署、能美ふるさとミュージアムができた。
- ・能美工業団地では、日本ガイシ㈱が進出されており、新たに同面積の工場をつくるために今、造成を行っている。
- ・市内を新幹線が走るようになり、能美根上駅も大きく変わった。また、能美根上スマートインターチェンジが完成し、周辺にはビジネスホテルや飲食店ができた。
- ・新しくできた加賀海浜産業道路沿線の福島グランパーク内には、戦略的企業誘致で、女性が多く働く企業も進出している。民営化の第1号の福島こども園があるほか、今後、総合商業施設もできる予定である。
- ・公園の整備も進めていて、能美シーサイドプレイパークにインクルーシブ遊具を備えた公園を造った。また、子ども宇宙科学室もリニューアルした。
- ・保育園民営化に取り組んでおり、まずは福島保育園を民営化した。続いて2園を民営化し、新園舎が間もなく竣工予定である。現在、4例目となる福岡保育園の民営化を進めている。
- ・防災設備を充実させ、はしご車や津波・大規模風水害対策車、ドローン等、いろいろな資材を整えている。また、救急車も能美市の人囗規模では、3台体制で十分とされているが、金沢大学附属病院や県立中央病院への搬送を行うとなると、その間、市内の救急車の数が不足するので、最新鋭の救急車をもう1台増やし、4台体制としている。

#### ○令和7年度予算編成方針

- ・事業・施策の7本柱が全て移住・定住の促進につながるように取り組んでいる。
- ・今、能美市では、自然動態がマイナスになっているが、社会動態がそれをカバーし、人口が少しづつ増えている。
- ・合計特殊出生率が全国や石川県で下がっている一方、能美市は伸びている。さらに子どもを産み育てやすい環境を整備し、伸びるように取り組んでいく。
- ・高齢化率の推移に大きな変化は見られない。現在、市内に100歳以上の方が43人いらっしゃり、内訳は男性が4名、女性が39名である。
- ・市税が大変好調で、令和元年に初めて90億円を超え、昨年度も90億円を越えた。

#### ○防災減災対策の強化

- ・地震被害想定に基づいて、避難所の設置や避難物資の備蓄を行っているが、今年の5月

に公表された新想定では、避難者数がこれまでの想定の約3倍に変更となった。能登半島地震の教訓を生かし、避難物資の数量や内容を大幅に見直している。

- ・本庁舎に防災・機能強化施設の建築を計画している。水害時に災害対策本部が支障なく開けるよう地下にある電気設備を1階に移すとともに、大災害時に派遣者等の受入れや避難物資を管理する場所の確保と避難所設営担当の教育委員会を本庁舎に移すために、新しい施設を本庁舎の横に建築する。交流スペースも作り、市民の皆さんに気軽に来ていただけるようにするほか、職員の打合せスペースや休憩場所としても活用する。
- ・市立病院とはまなすの丘が老朽化していることから、能美市立病院の在り方検討委員会を立ち上げ、地域の医療体制をしっかり守るため協議を始めている。

#### ○インクルーシブシティの深化

- ・ライドシェア「ノルノミ」と買物代行のスマート物流を行っているが、両事業とも利用者が少ない。サービスをパッケージングし、サブスクリプションとして利用者を増やすをいかと検討している。利用者を増やすために何かいい案があれば教えてほしい。
- ・妊娠期から子どもが青年期になるまで、切れ目のないサポートを行っている。例えば、通院先が変わっても予防接種歴や治療歴がわかるようにしようと取り組んでいる。また、教育センターを現在の生活支援ハウスに移し、サンテの近くにすることで、さらに子育て支援の体制を整える。

#### ○知名度・魅力度の向上

- ・20周年を記念して、2月1日に懸垂幕を掲げるとともに市内小中学校で2日間にわたりお祝い給食を出した。
- ・20周年記念事業として、8月に行ったNHKのラジオ体操の収録では、開始30分前の6時に1,400人もの人が集まり、主催者からお褒めの言葉をいただいた。
- ・和気の岩ドッグランをリニューアルした。犬が遊ぶ場所を従来の約3倍の大きさに広げるとともに、小型犬と中・大型犬のエリアを分けた。犬の水飲み場や、トイレスペース等も設置し、大変喜んでいただいた。
- ・健康ロードもリニューアルし、10/25に行った完成記念式典のウォーキングイベントで約16km歩いた。その夜には、のみふる古墳まつりで、古代の衣装を着て歩き、この日の歩数は2万7,475歩であった。

- ・10/26には「なんでも鑑定団」の収録があり、多くの方から鑑定依頼の申込みがあった。
- ・ゆかりのミュージシャンによるコンサートで20周年事業の最後を締めくくりたい。
- ・のみでん広場にある車両を能美根上駅に移設し、無人のコンビニとして利用する予定である。おそらく全国に同様の事例がなく、大変人気が出るのではと思っている。また、旧駅員室をカフェにし、そこで働く人たちに駅利用者のサポートをしてもらおうと計画している。ホームに看板広告を設置する予定であり、広告主を募集する。
- ・辰口フラワーhaus跡地については、整備検討委員会を立ち上げ、建設に向けて検討を進めている。女性団体協議会の方にも委員として参加していただいている。この周辺は、観光の一番の用地であるので、皆さんの様々な要望を聞きながら、多くの方に使ってもらえる施設を造りたいと考えている。
- ・人財を確保するため、奨学金の返還を支援する制度を作った。また、寺井高校の志願者が減っているので、学校給食センターで作る給食を寺井高校の希望者に提供する制度も作った。保護者の負担が少なくなり、子どもたちも美味しい温かな給食が食べられると大変好評をいただいている。

#### ○持続可能な行財政改革

- ・市内の公民館や下水道管等が老朽化しており、改修に莫大な費用がかかるので、財源確保が課題である。また、市内の11小中学校も老朽化しており、その中でも一番古い、浜小学校の建て直しに初めに取り掛かりたいと思っているが、莫大な財源が必要となる。建て直しには時間がかかるので、まずは安全・安心、おいしい給食を提供するため、学校給食センターを新しく造った。学校給食センターでは、栄養士が栄養を考えたメニューの作成や、できあがった給食のチェック、給食センターに戻ってきた給食量の確認を行って、管理している。
- ・財源確保のため、ペーパーレスやフリーアドレスに取り組み、3年間で約1,700万円の経済効果が出ている。また、能美市誕生20周年の節目に抜本的に経費削減に取り組むため、全ての事業、施策を見直すべく、タスクフォースチームを立ち上げた。
- ・能美市には外国人の方が多いので、窓口に字幕表示システムを導入した。
- ・教育委員会が本庁舎に移動することに伴い、根上総合文化会館に根上サービスセンターと根上婦人会、貸衣装スペースを移動させる予定である。市役所の手続きを土、日曜日にしたいという声を受けて、根上サービスセンターを休日に開ける。根上総合文化会館では、

休日にコンサートやイベントを行っているので、利便性を高めていきたい。

#### 4) 提言

【提言 1】能美市内に子どもたちの集いの場をもっと作ってあげたい

- ・全天候型施設の設置、児童館や使われていない施設等の活用、辰口丘陵公園の進捗状況について
- ・福島グランパークへの大型商業施設誘致、辰口フラワーハウス跡地活用の進捗状況について

【市長】全天候型施設については、多くの皆さんからご要望をいただいている。財源確保の課題がある中、石川県と一緒に取り組むことで、辰口丘陵公園内に施設を設けられないかと考えている。県が辰口丘陵公園内に全天候型施設を設置し、市は辰口フラワーハウス跡地に道の駅的な機能を持った施設を造ることで、あの周辺一帯の更なる利便性向上を図り、多くの方に利用してもらえる施設となるようにしたい。現在、検討チームを作って、女性協議会からも出ていただいている。先週の会の中でも、提言の中にあることが盛り込まれていた。ご要望があれば、検討委員会の中で揉んでいくので、お伝えいただきたい。

福島グランパークについては、物価高や資材高で思うように建設が進んでいないが、大和ハウス工業(株)に市民の要望とともに、近年、大型ショッピングセンターの中に子どもたちが遊べるスペースを設けて、遊びに来た人たちが買物や飲食をする相乗効果を出している事例があることもお伝えしている。

一方、最近市内で空き家や簡易な建物を活用するなど、様々な形態での飲食店が増えている。創業しやすいよう様々な支援や相談体制を整備している。大きなショッピングセンターを造るのには時間がかかるが、何とか小中学生にも喜んでもらえるように取り組んでいきたい。

たまり場については、今、子どもたちに詳しく話を聞いている。前回の寺井地区のカフェトークで皆さんから寺井図書館でもっと勉強できるようにしてほしいと言われ、すぐに環境を整えた。気軽に利用できる場所を増やしていきたい。

施設のPRについては、ホームページ等、様々なところでPRはしており、意外と市外の利用者が多い。他市の保育園が遠足で動物園に来られて、雨天時にお弁当を食べる場所として児童館を使ってもらうこともある。市民の使い勝手が悪くならないようにしながら、多くの皆さんに使ってもらえるようにPRしていきたい。

## 【提言 2】能美市学校給食センターの運用について

集中に対するリスク管理、アレルギー対応、物価高騰への懸念について

【市長】パンがしばらく提供ができなかったのは、パン提供事業者の製造工程に問題があったからであり、給食センターの問題ではなかった。つい最近、小学校の運動会の日が変わり、調理員が不足することがあった。能美市の給食センターを運営している事業者は、他の市町の給食も作っており、調理員を派遣してもらって対応した。デメリットもあるとは思うが、メリットが大幅にあることからセンター方式にしたことをご理解いただきたい。

アレルギーのお子さんを持つ保護者の方は大変ご苦労されているのは存じている。アレルギーは成長されるにつれて緩和されることもある。給食センターで卵は100%除去できており、あとは小麦と牛乳である。これを使わずに、毎日美味しくて栄養価のある給食を作ることが難しい。ただ、全部食べられない日があったことも聞いており、栄養士が皆さんに喜んでいただけるよう努力すると言っているので、もう少し見守ってほしい。

物価高騰を理由に小中学校の給食費無償化を止める事はない。原材料費の高騰で給食の質や量を悪くすることがないよう、12月議会で補正予算を組んで対応する予定である。

給食センターが遠い存在であるということだが、ぜひ給食センターに足を運んで、皆さんのが声を栄養士や給食センターの職員に伝えてほしい。栄養士は作る前だけでなく、必ずセンターに戻ってきた給食量をチェックして、献立に反映している。例えば、最近、中学生がお米を食べないので、別のもので栄養がとれるよう工夫したり、牛乳をなかなか飲まないということから、牛乳の栄養価を伝える掲示物を行ったりしている。その様子を広報のみの今月号に紹介しているので、ぜひ見てほしい。また、この間アンケート調査を実施したと聞いている。

寺井地区のカフェトークでカレーが美味しいといふ話が出ていると聞いて、すぐに調べた。給食センターになって初めて作ったメニューがカレーであり、煮込みすぎて、具から水分が多く出たことで味がいつもより薄くなってしまったことが原因であった。能美市の給食のカレーは、ルーから作っており、市販のカレー粉は最後の味の調整に少し使っているだけである。皆さん全員は難しいが、ぜひ給食を試食していただけるような機会を作つていけばと思っている。

【提言3】市内施設（和田山・末寺山史跡公園バーベキュー場、翠ヶ丘いこいの広場）の有効活用について

利用時間の拡大と照明の整備、案内・情報発信の強化、デジタル化による利便性の向上について

【市長】和田山ふるさと歴史の広場は、滑り台をもう1台設置したこと、土日になると本当に多くの方に利用いただいている。夜の利用については、周辺住民のご理解がないと、利用時間の拡大ができない。一度、聞いてみようとは思っているが、夜まで使うことに対する反対意見が多いというのが実情であり、ご理解をいただきたい。

翠ヶ丘いこいの広場は、リニューアルの準備を進めている。こちらは高速道路の向こう側にあるので、近隣住民に迷惑をかけることが少ない。また、夏のキャンプは木がある場所が好まれるので、ふるさと歴史の広場よりもキャンプはこちらが良いのではないかと思っている。財源の関係で、遊ぶ場所の整備は、まずは辰口フラワーハウス跡地の活用を行い、その次にこちらに着手したいと考えている。そのときには、旧辰口フラワーハウス整備構想検討委員会のような委員会を立ち上げたいと思っているので、ぜひ委員になってもらえればと思う。

案内看板の件については、最近目的地へ行くために車やスマホのナビゲーションを使い、案内看板をほとんど見ないのではないか。また、看板設置後のメンテナンスが大変である。現在、市内には寺井駅と書かれた看板がまだいくつも残っていたり、新しい道路が表示されていない看板があったりするので、新しい看板を作る前に既存の看板を整理しなければならない。デジタルの力を借りて、施設をうまく探してもらえるようにしたい。

施設のインターネット予約は順次、対象施設を広げている。市民サービス向上のため、市役所窓口の混雑状況の確認や予約ができるようにしたり、窓口に行かなくても様々な手続きができるようにしたりする等、デジタル市民ファーストに取り組んでいる。順番に取り組んでおり、娯楽施設や遊具施設も対応できるようにするために、もう少し待っていてほしい。

## 5) 質疑応答、意見交換

質問・意見

**【参加者】**私たち世代はネットが使えるが、まだそこまで買物に困っていないので、能美市版公共ライドシェア「ノルノミ」やオンライン物流を利用する必要がない。それらのサービスを必要とする親世代を見ていると、ネットを使うのが難しい。本当に必要としている人が利用できるサービスになっているか疑問である。

はまなすの丘を老朽化で閉めるという話になっているが、今後ますます高齢化が進む中、自分たちが高齢者になったときに入れる施設が市内にあるのか。

**【市長】**デジタル公民館の取り組みを行っており、公民館に行ってもらえば、サポートが受けられるようにしようと考えている。家の中にずっと閉じこもっていると健康に良くなく、他の人と交流することが大切である。

高齢化が進む中、ケアマネージャーや町会・町内会長、民生委員児童委員にご支援いただかないと対応できないこともある。ケアマネージャーや民生委員児童委員等になってもいいと思ってもらえるように市としてサポートをして、高齢者に安心して暮らしてもらえるよう取り組んでいる。

介護施設については、老朽化とスタッフ不足で、はまなすの丘の維持が難しいことから、能美市立病院に移設する予定であり、今入所されている方のサポートを行っていく。民間の施設が増えてきており、入所に多少待ちの状態はあるものの、入りたい人が入れるようにしていかなければならない。また、自宅療養希望者のサポート体制も充実させながら、能美市に住む全ての人が安全安心に住めるよう、デジタルの力を使ったり、民間の力を活用したりしながら地域共生社会に取り組んでいきたい。

## 6) 能美市女性協議会 田中副会長挨拶

## 7) 閉会